

ノーバディーズ・パーフェクト 平成25年度 事業評価報告

実施者： NPO法人 place of peace

後援： 静岡市

評価者： 後藤あや(福島県立医科大学)

津富宏(静岡県立大学)

報告日： 平成26年3月1日



ノーバディーズ・パーフェクト(NP)とは

- カナダ全土で行われている「親」学習プログラム
- 日本でも育児の自信がつくことが報告されている
(後藤、津富、他. カナダのNPを参考にした育児学級参加者の追跡.
保健師ジャーナル. 2010; 66: 1086-1094)
- 参加者が決めたその日のテーマに沿って、悩み、迷い、気になっている事を話し合う
- NP専任のファシリテーターが、様々な手法を用いて話し合いを進行する
- 交流の中から参加者自身が学び、自分の子育てにどう生かしていくかを考えるプログラム
- 対象は未就学児の保護者
- 基本的に2時間/回を毎週1回、計6回
- 一時保育を用意



平成25年度事業評価方法

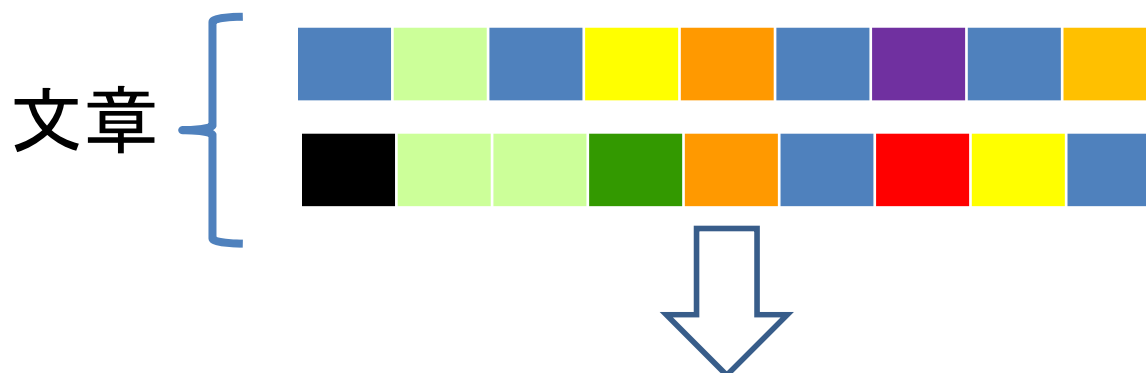
- 対象： 2か所で実施したNPを評価
- 評価方法： 実施前後に自記式アンケートを実施
- 評価項目： 参加率、参加回数、アンケート結果
- アンケートの主な内容
実施前：日常生活で困っていること、子育てで大変なこと
実施後：変わったこと、学んだこと、今後に向けていの意見、
満足度、(他の人への)推薦度
- 分析方法
量的データの集計
質的データのKHcoderによる解析(→参考資料)



参考資料:

KHcoderによる質的データ(文章)の分析

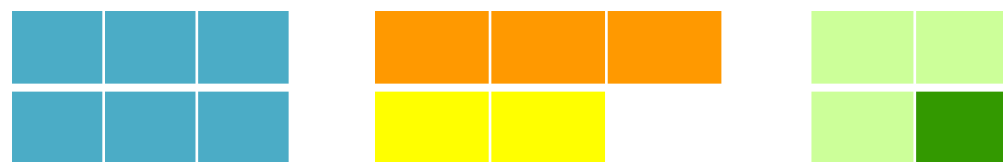
文章をKHcoderに投入して単語に分解
頻度の高い順にリスト



除外:

複数のテーマ
に跨る単語

頻度の高い単語を
主なテーマにカテゴリー化



参加率、参加回数

- 20人が事前登録し、19人が実際に参加した。

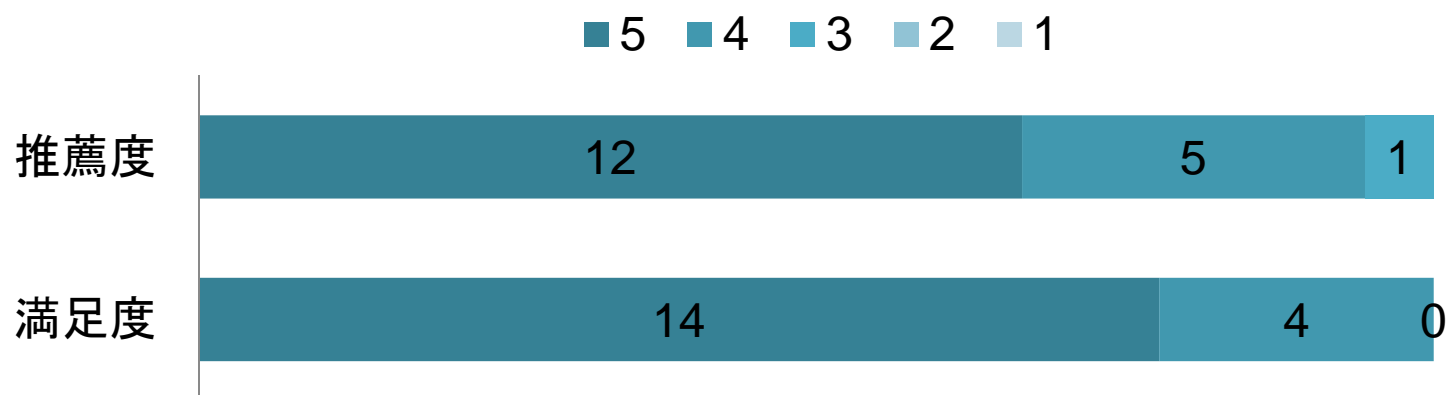
参加回数	人数 (%)
3回	2人 (%)
5回	4人 (%)
全6回	13人 (%)

約7割が全回参加しており、プログラムの高い受容性を示している



アンケート結果:量的データ

- 推薦度 「お友達や子育て中のお母さんに、
このプログラムを勧めたいと思いますか？」
5段階スケール: 5(すすめたい) ~ 1(すすめたくない)
- 満足度 「このプログラムを気に入りましたか？」
5段階スケール: 5(とても気に入った) ~ 1(全く気に入らなかった)



満足度が高く、他の人にも推薦したいと多くが回答

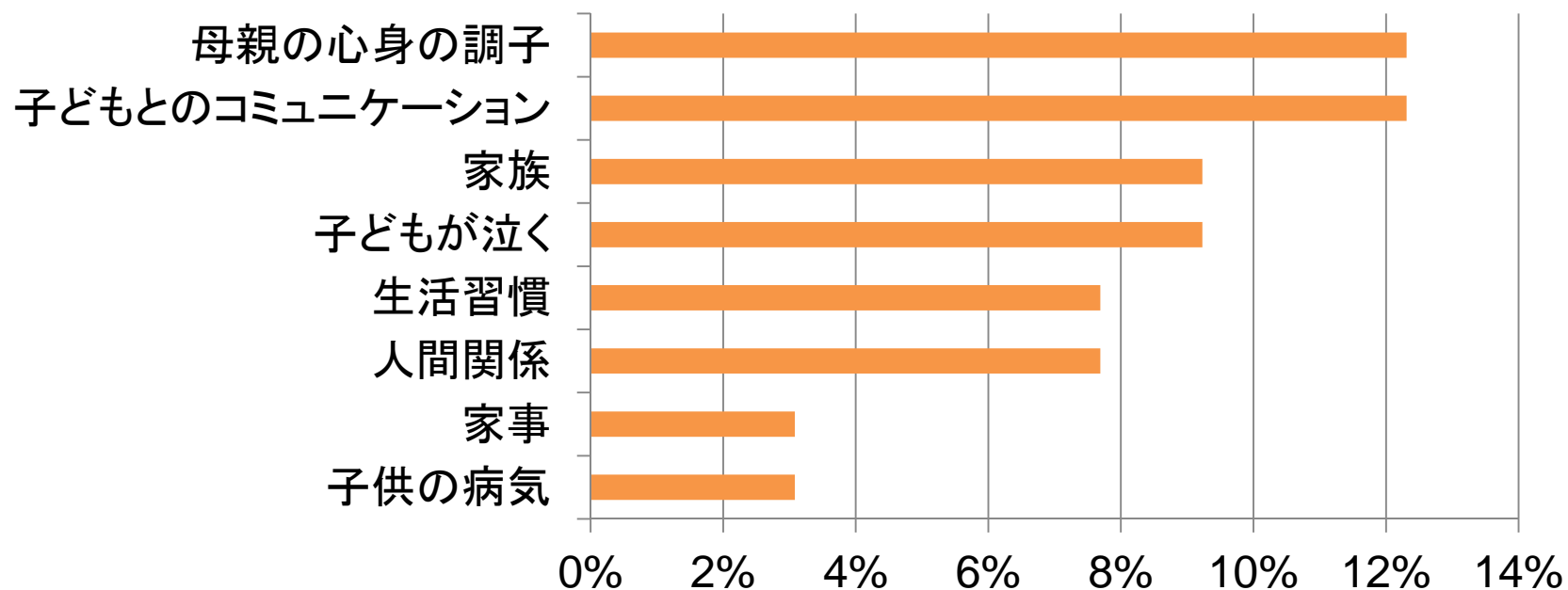


アンケート結果：参加前の質的データ

- 日常生活で困っていること、子育てで大変なこと

文章数=85

※文章をKHcoderに投入し、リストされた頻出語のうち出現数が2回以上の語彙を、元の文書を参照しながらカテゴリー化した。下図は各カテゴリーの頻度。



上位カテゴリーの記載例

- 母親の心身の不調

「自分の体力がもたず、体調が良くない時など、とても大変に感じる。」

- 子どもとのコミュニケーション

「子供の気持ちの上下にこちらがついていけない。」

- 家族

「子育てにおわれ、主人との会話が減ったこと。」

母親は心身ともに疲れ、夫や子どもと上手くコミュニケーションを図る余裕がなくなっている。



その他の記載例

- 人間関係

「周りのママ友や、他人の子供の事を気にしていまい、思う様に自分の子供に接することができない時。」

さらに、家庭内だけでなく、周囲との関係でも悩みを抱えている。

その他、一般的な育児相談として、子どもが泣くこと、生活習慣、病気の際の対応について記載があった。

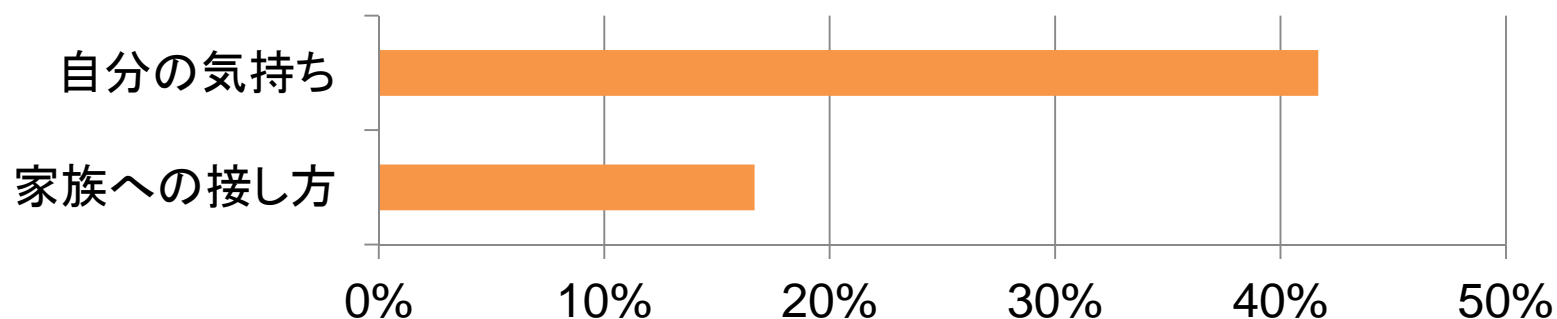


アンケート結果：参加後の質的データ

- 参加して変わったこと

文章数=24

※文章をKHcoderに投入し、リストされた頻出語のうち出現数が2回以上の語彙を、元の文書を参照しながらカテゴリー化した。下図は各カテゴリーの頻度。



記載例

- 自分の気持ち

「皆、同じ様に何か悩んでいたりで、「自分だけじゃないんだ」って思えて、少し、ゆったりできた。」

- 家族への接し方

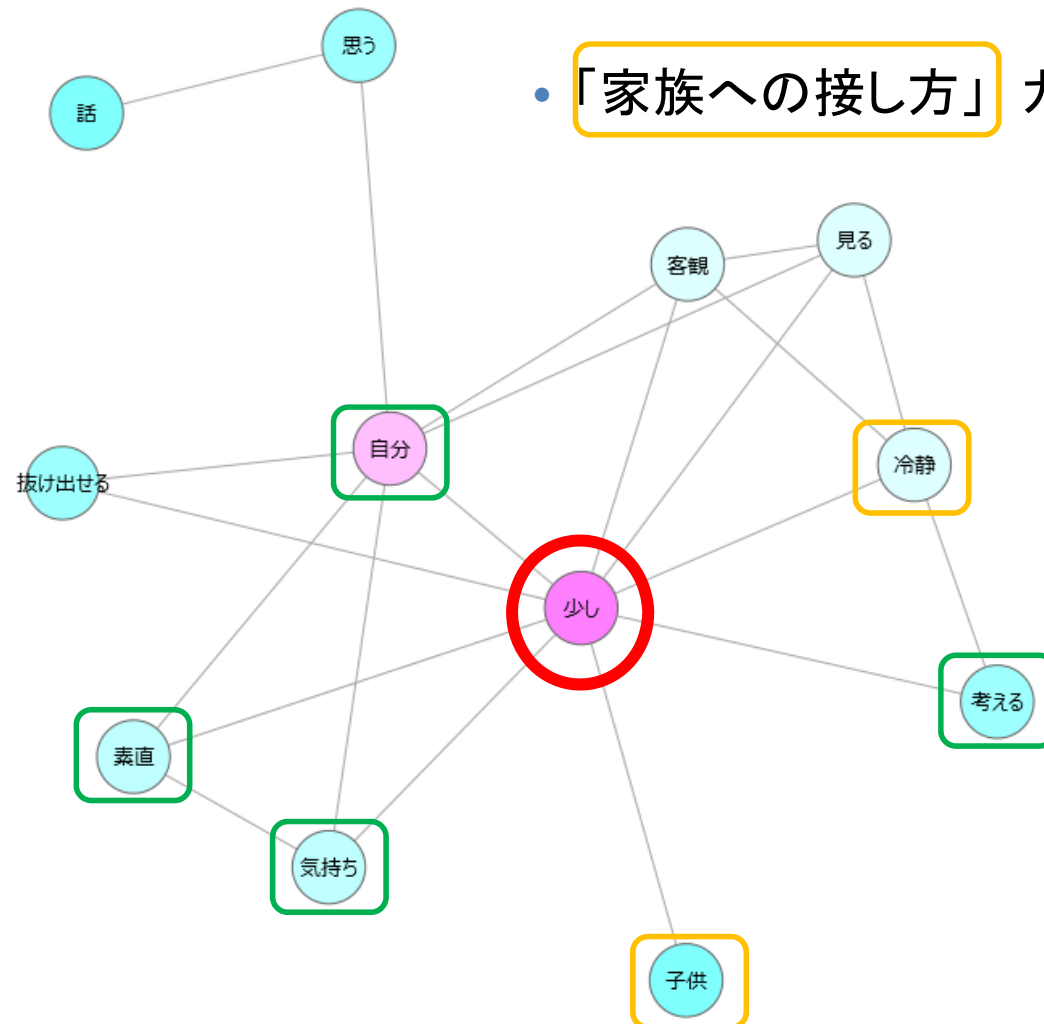
「つい怒ってしまっても、少し冷静に考えれるようになった。」

母親の気持ちに余裕ができ、家族とのコミュニケーションが円滑になる傾向にあった。



変化の幅

- 「自分の気持ち」 カテゴリーに含まれる語彙
- 「家族への接し方」 カテゴリーに含まれる語彙



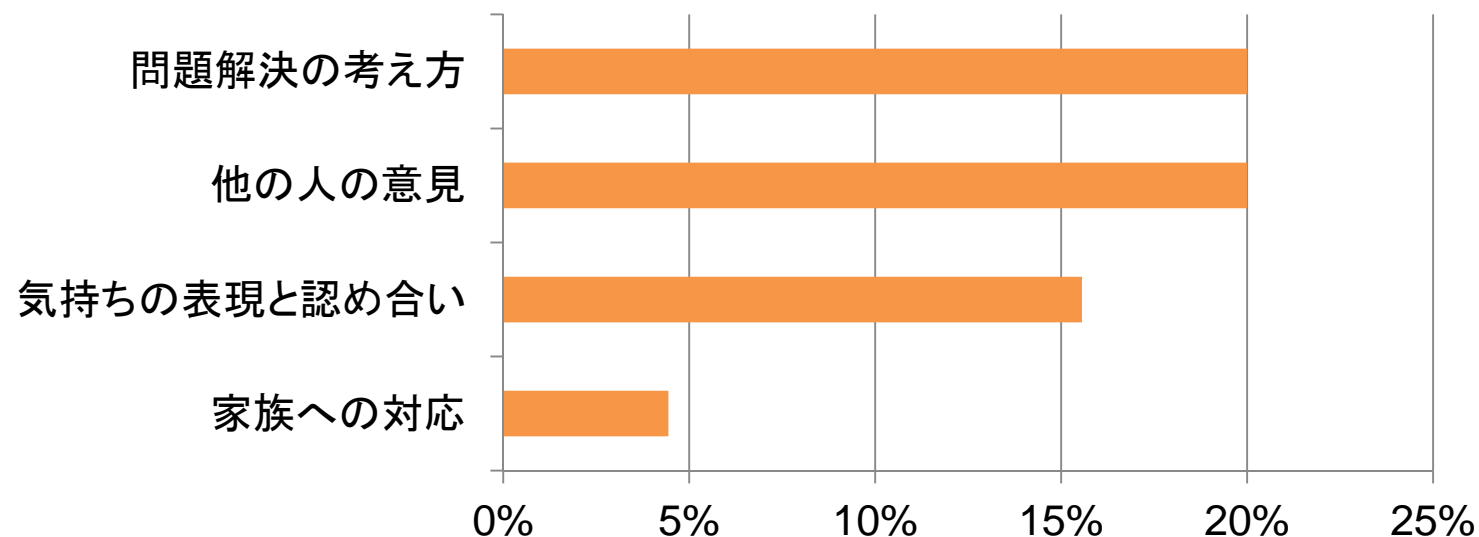
ただし、変化を示す言葉は「少し」という言葉と関連して使われており、参加者が自覚する変化の幅は少ない。

アンケート結果：参加後の質的データ

- 参加して学んだこと

文章数=45

※文章をKHcoderに投入し、リストされた頻出語のうち出現数が2回以上の語彙を、元の文書を参照しながらカテゴリー化した。下図は各カテゴリーの頻度。



上位カテゴリーの記載例

- 問題解決の考え方

「問題が起きたら、すぐ解決の手段ではなく、状況分せきするのは、自分だけでなく、子供に教えるのにもわかりやすく使えよかったです。」

- 他の人の意見

「いろいろな人の意見をきいてみんな同じで、自分だけじゃない、とわかった。」

- 気持ちの表現と認め合い

「日々がんばっている事を皆で認め合った。」

具体的な問題解決のアプローチと、お互いの気持ちへの共感・認め合いが、主な学びだった。



今後に向けての参加者の意見

- 時間を長く、回数を多く 4人
 - 皆が話せる工夫をする 3人
 - 演習を一部宿題に 1人
 - 託児料金を下げる 1人
 - 日程の事前周知 1人
- (※ほぼ全員が広報またはチラシを見て参加)
- プライバシーの保持 1人



評価者の観察メモ

※評価者2人がNPのまとめセッションを1回観察

- トレーニングを受け、経験を積んだファシリテーターにより和やかな雰囲気ですムーズに進行されていた。
- 市の後援を得て、市報で広報し、当日は市職員が参加しており、市との連携が取れている。
- 参加費がかかるためか、社会経済状況が比較的良い参加者が多い印象。
- 個別相談を必要とするケースも含まれており、市保健師との連携が望ましい。



まとめ

成果

- 本プログラムの参加者の受容は高い。
- 参加前の主な訴えであった、心身の疲れやコミュニケーションの悩みが、参加後には解決される傾向にあった。
- その機序としては、問題の解決方法が具体的に学べたこと、仲間同士の共感と認め合いであることが示唆された。

課題

- 限られた実施回数でも、皆が話せる工夫が必要である。
- 本プログラム内で参加者が自覚できる程の変化は小さく、継続した交流・支援が望まれる。
- 母親同士の話合いが趣旨の集まりではあるが、育児相談への専門家の対応も必要である。



提言

- 一定の成果を上げており、本プログラムへの、**市の継続した後援、支援**が望まれる。
※参加費の負担が減ることにより、より幅広い層の参加が期待できる。
- 市保健師・助産師の協力を得て、各グループ数回だけでも参加いただき、育児相談への対応や、個別相談が必要なハイリスクケースへの**迅速な専門的対応**ができる体制を確保することが望ましい。
- プログラム内での交流の場の提供は限られており、参加者の自助グループ、または上記の専門的サポートにつなげる**継続支援**が必要である。

